

平成22年度 事業報告書

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業1）

1. 機関誌 月刊『フィランソロピー』の発行

今年度も10回発行した。各号の特集として下記を取上げた。また、7月号から新たに「Philanthropy NOW」というコーナーを設け（不定期）、各企業における社会貢献の取組みを紹介している。

平成22年度	特 集
4月号	人と組織の成長を導くリーダーシップ
5/6月合併号	花に学ぶフィランソロピー
7月号	大学と地域・企業との協働
8月号	病気に向き合う子どもと家族を応援したい！
9月号	丸の内に遊ぶ・学ぶ
10/11月合併号	COP10を前に、改めて生物多様性の本質を考える
12月号	教育格差から子どもを救う - みんなの眼差しが子どもの自信をつくる鍵
1月号	セルフリーダーが民主主義を創る
2月号	笑う門に福来る-笑いが人と社会を豊かにする
3月号	CSRのベストプラクティス 第8回企業フィランソロピー大賞

2. インターネットを利用した情報提供事業（SNS・メルマガ・HP）

・インターネットを用いた情報提供を、メールマガジンとして毎月1日・15日配信に配信（配信先約9,000）している。

II. 社会貢献促進事業（公益目的事業2）

1. 研修事業

主に企業のCSR・社会貢献担当者を対象としたセミナーを10回開催した。また、9月には、新たに社会的責任の手引きとして国際標準化機構（ISO）より発行されたISO26000を自社のCSR評価ツールとして活用することを目的とした講義と演習型式によるセミナーを開催した。また、ISO26000を基本から学ぶことを目的とした特別セミナーを大阪で開催した。

①定例セミナー

- (1) 対象 : 企業の社会貢献・CSR担当者など
- (2) 開催数 : 月1回（8月を除く）
- (3) 企画・運営幹事 : 松原 朋子 氏（マイクロソフト株式会社）

金村 俊治 氏 (パナソニック株式会社)

赤堀 久美子 氏 (株式会社リコー)

(4) 形態 : 講演会、グループ・ディスカッション、ワークショップなど。

実施日	テーマおよび講師
第 249 回 4 月 16 日	コース・リレーテッド・マーケティング (CRM) を考える ～アサヒビール株式会社と王子ネピア株式会社の事例から～
第 250 回 5 月 20 日	開発途上国にとって真に有益な BOP ビジネスとは ピーター D. ピーダーセン 氏 (株式会社イースクエア 代表取締役社長)
第 251 回 6 月 22 日	企業の社会貢献活動におけるソーシャルメディアマーケティングの有効活用 とは 池田 紀行 氏 (株式会社トライバルメディアハウス 代表取締役社長)
第 252 回 7 月 21 日	社員ボランティア活動推進における、プロボノの課題と可能性 ～サービスグラントの活動を通して～ 嵯峨 生馬 氏 (NPO 法人サービスグラント 代表理事)
第 253 回 9 月 30 日	企業の CSR 推進における ISO26000 の有効活用を考える ～ISO26000 を CSR 評価のツールとして活用するには 林 正次 (公益社団法人日本フィランソロピー協会)
第 254 回 10 月 28 日	これからの CSR に不可欠なサステナビリティ教育を学ぶ ～企業人のための“ESD” (持続可能な開発のための教育) を通して～ 中野 民夫 氏 (株式会社博報堂 インテリジェンス推進部 CC ディレク ター)
第 255 回 11 月 18 日	開発途上国の現場から考える BOP ビジネス ～それぞれの企業の役割を考える～ 植屋 詩野 氏 (株式会社日本総合研究所ヨーロッパ 研究員)
第 256 回 12 月 9 日	企業の経営戦略における CSR を考える スコット・トレバー・デイヴィス 氏 (立教大学経営学部国際経営学科教授)
第 257 回 1 月 27 日	「新しい公共」における企業および企業人の役割とは何か 金子 郁容 氏 (『新しい公共』 推進会議座長、慶応義塾大学政策・メディア研究科教授)
第 258 回 2 月 18 日	ステークホルダーに伝わる「CSR 報告書」を作るためには 事例紹介 (帝人株式会社および株式会社東芝) ディスカッション進行役 藺田 綾子 氏 (株式会社クレアン 代表取締役)

② 『フィランソロピーセミナー in 大阪』

第一回目 12 月 21 日	企業の CSR 推進における ISO26000 の有効活用を考える ～ISO26000 を CSR 評価のツールとして活用するには 林 正次 (公益社団法人日本フィランソロピー協会)
第二回目 2 月 15 日	< 第一部 > 講演 『ISO26000 の基本と活用』 講師： 関 正雄 氏 (株式会社損害保険ジャパン 理事 CSR 統括部長) < 第二部 > 講義および課題演習 『ISO26000 を CSR 評価ツールとして活用するには』 講師： 林 正次 (公益社団法人日本フィランソロピー協会)

③Stone Soup Club (ストーン・スープ・クラブ)

会員企業限定の勉強会として、今年度4月に開始した。毎回15名から20名の参加があり、各社における社会貢献活動の事例紹介と意見交換を行なっている。

3月開催の第11回では、予定のテーマに加えて参加各社の東日本大震災支援に関する取り組みについて情報交換を行なった。これをもとに、各社からの緊急支援物資の配布に関する支援業務を行った。

実施日	テーマ
第1回 4月14日	趣旨説明、自己紹介、フリーディスカッション
第2回 5月21日	NECソフト株式会社 「ハーブガーデンプロジェクト」 パナソニック株式会社 「Panasonic NPOサポートファンド」
第3回 6月21日	株式会社丹青社 「ユニバーサル in 八丈島」
第4回 7月28日	株式会社資生堂 「資生堂ライフクオリティビューティープログラム」
第5回 9月15日	アフラック「ONE HUNDRED CLUB」とアフラックペアレンツハウス内見学
第6回 10月15日	日本電気株式会社 (NEC) 「社会貢献プログラムの評価」
第7回 11月25日	「ISO26KをCSR評価ツールとして活用するには」
第8回 12月15日	味の素株式会社 「社会との対話をどう進めるか～ステークホルダー・ダイアログ～」
第9回 1月28日	キューピー株式会社 「キューピーのコミュニケーションツール ブログとiQp」
第10回 2月25日	フィリップモリスジャパン、日本アムウェイ合同会社 「社会的養護が必要な子どもたちへの支援」
第11回 3月28日	①アミタエコブレーン株式会社「CSR JAPANを使った横断検索」 ②東北地方太平洋沖地震に対する各社様のご対応と今後の支援について

2. 企業の社会参加支援事業 (コンサルテーション)

企業の社会貢献事業に対する企画提案 (社会貢献プログラム立案・NPO 支援先提案など) と運営 (共催・事務局など) 協力を行った。

(1) 日本製紙株式会社

毎年「森と紙のなかよし学校」として、社員参加で実施してきたプロジェクトで、今年は第9回および第10回を行った。一般の親子30名を招待し、「森を歩こう・小枝から紙を作ろう」のテーマで自然とのふれあい体験を実施した。

①日 時： 第9回 6月5 (土) ～6日 (日)、第10回 9月25 (土) ～26日 (日)

②場 所： 同社社有林 (群馬県丸沼高原)

(2) 三井物産株式会社

Mitsui Global Volunteer Programの一環として、社員向け講演会をコーディネートした。

- ①日 時：平成22年10月25日(月)
- ②場 所：同社 本社ビル会議室
- ③テーマ：「やってみよう、私にもできること。」
- ④講 師：知花 くらら氏 WFP(国連世界食糧計画)オフィシャルサポーター

(3) 第一生命保険株式会社

同社の実施している、保健福祉、生活環境、地域貢献など多様な社会貢献活動への顕彰審査に外部審査員として参加した。

(4) 日本サムスン株式会社

サムスングループが世界で実施している「サムスン・ボランティア・フェスティバル」の一環として日本サムスン全役職員参加のもとに「日本サムスン・ボランティアデー」を毎年秋に実施している。当協会は「日本サムスン・ボランティア賞」の選考審査員として参加した。また、今年度は新規プログラムの追加調査依頼を受け、科学教育分野でのボランティアプログラムを調査、紹介した。

(5) キャドバリー・ジャパン株式会社

①カム スマイル プロジェクト

同社の一商品の発売10周年を記念して、売り上げの一部を活用した国際協力プログラム。当協会では、そのプログラムの一つであるネパールでの「歯磨き推進プログラム」の実施にあたり、キャドバリー・ジャパン株式会社(現・日本クラフトフーズ株式会社)とネパール現地で活動を行なうNPO 法人 AMDA 社会開発機構とのマッチング、およびプログラムのコーディネートを行った。

② Work As One プロジェクト

キャドバリー・ジャパン株式会社(現・日本クラフトフーズ株式会社)の社員参加のボランティアプログラムの企画とコーディネートを実施。「子ども」と「食育」をテーマにしたボランティア活動を軸に、受け入れ先施設や協働NPOとの調整を同社の支店も含め全国10か所で行なった。

(6) アジレント・テクノロジー株式会社

同社が支援する全国科学教育ボランティア研究大会実行委員会と共催で、「第10回全国科学教育ボランティア研究大会 in 岡山」を実施した。

- ①日 時：平成22年11月27日(土) および28日(日)
- ②場 所：岡山理科大学
- ③テーマ：『地元から発信する科学教育ボランティア』

(7) 日本郵船株式会社

同社が開催する「テーブルマナー教室」に参加する養護施設児童の募集およびコーディネートを行なった。東京都社会福祉協議会、東京養育家庭の会と協働で呼びかけを行ない、25名の高校生、大学生、および専門学校生が参加した。

①日 時：平成22年12月5日（日）

②場 所：クリスタルヨットクラブ 天王洲アイル（品川区 東品川）

(8) 株式会社ジェーシービー（平成23年1月～12月末まで）

「50周年社会貢献プログラム」の事務局として、同社従業員3千名を対象とした（平成23年12月末まで）ボランティア活動の受入先団体の探索、調整等を行なっている。

3. フィランソロピーバンク事業（個人の寄付文化醸成事業）

企業の社員、顧客や株主からの寄付と企業の協働寄付システムであるフィランソロピーバンクの平成22年度参加企業は以下のとおりであった。また、東日本大震災支援のための募金を3月より開始しており、多くの方々よりご支援を頂いている。これらの支援金を有効に利用するため、被災者にとって真に求められる活動を行っている団体を選択し、寄付先としている。次年度も引き続きこの活動を進める予定である。なお、支援金の配布については外部委員3名を含む4名の選考委員により寄付先および寄付金額を決定している。

(1) 日本郵船株式会社

①概要：「NYKハートフル募金」として平成20年から実施している社内募金プログラムであるが、ここからの寄金を以下の3団体に決定した。募金期間の初日には、寄付先団体による社員向けプレゼンテーションを実施した。

②寄付先：社会的困難を抱える子どもへの3支援団体

西脇基金を支える会（東京都）
NPO 法人ぱお（東京都）
認定NPO 法人ファミリーハウス（東京都）

(2) 王子ネピア株式会社

①概要：乳児の紙おむつブランド「Nepia GENKI!」の商品売上を通じたコーズリレーテッド・マーケティングによる寄付金。

②寄付先：NPO 法人日本クリニックラウン協会（大阪府）

(3) 有限会社本牧ファイル

①概要：同社の商品売上を通じたコーズリレーテッド・マーケティングによる寄付金。

②寄付先：NPO 法人弱視の子どもたちに絵本を（大阪府）

(4) ファンケル株式会社

①概要：平成20年度にスタートした「新ポイントサービス」による寄付金で、お客様が保有するポイントに社員からの寄付を加えて重度障害者の施設へ寄付するプログラムであるが、本年度の寄付先を以下に決定した。

②寄付先：全国の重度心身障がい者福祉施設（10団体）

札幌いちご会（北海道）	社会福祉法人愛光園（愛知県）
社会福祉法人抱民舎（青森県）	認定NPO法人パッチワーク（石川県）
社会福祉法人訪問の家（神奈川県）	社会福祉法人澄心（愛媛県）
社会福祉法人十愛療育会（神奈川県）	社会福祉法人じねんじょ（山口県）
NPO法人かめのすけ（兵庫県）	社会福祉法人スプリングひびき（佐賀県）

(5) 明治安田生命保険相互会社

①概要：全国4カ所で開催される同社主催「愛と平和のチャリティー・コンサート」の入場料収入および募金の合計額を寄付するプログラムからの寄金の寄付先を以下の10団体とした。

②寄付先：「こども」と「環境」をテーマとして活動している10団体

NPO法人トラストサルン釧路（北海道）	NPO法人びわこ豊穰の郷（滋賀県）
NPO法人あぶくまエヌエスネット（福島県）	NPO法人関西こども文化協会（大阪府）
NPO法人森の会（新潟県）	ひろしまこども夢財団（広島県）
NPO法人子育てサポーター・チャオ（埼玉県）	NPO法人コミネット協会（熊本県）
NPO法人子どもと文化協議会プラッツ（東京都）	NPO法人沖縄O.C.E.A.N（沖縄県）

(6) 株式会社NTTデータ

①概要：福祉作業所・授産施設で作ったお菓자에寄付金を付けて2月の「NTTデータ流バレンタイン・チャリティー」イベントで社内販売し、同額を会社がマッチングして障がい者の自立支援を行っている団体へ寄付するプログラムであり、寄付先を以下の3団体に決定した。

②寄付先：障がい児・者への支援を行なっている3団体

NPO法人ばお（東京都）
NPO法人東京盲ろう者友の会（東京都）
NPO法人エッジ（東京都）

(7) ハートフォード生命保険株式会社

①概要：社内チャリティーイベントの収益金による寄付プログラムからの寄金について以下の団体への寄付を決定した。

②寄付先：子どもへの支援を行なっている2団体

NPO法人キッズドア（東京都）
一般社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO（東京都）

4. 顕彰事業（まちかど・企業フィランソロピー大賞）

（1）まちかどのフィランソロピスト賞（第13回）

全国から社会的活動に寄付をした人を募り、顕彰することで個人の寄付文化の醸成をめざしているが、今年度は1972年からご自身の生まれた地域の75歳以上のお年寄りに「敬老の日」のプレゼントを続けている若槻 一夫 氏（広島県）を大賞に選んだ。

また、今年度は青少年部門（賞）を「青少年フィランソロピスト賞」とするとともに文部科学省の後援を受け、ネパールの子どものたちの就学支援を行っている大阪府立長吉高等学校を文部科学大臣賞として表彰した。また、これは日本郵便株式会社・年賀寄附金助成事業の「青少年の寄付文化醸成のための調査研究及び啓発事業」助成事業として実施した。奨励賞を含む受賞校を以下のとおりとした。

- ・文部科学大臣賞 : 大阪府立長吉高等学校
- ・奨励賞 : 大阪府立東住吉高等学校、長野県立大町北高等学校
東京都立江戸川区立小学校、東京国際学園高等部

（2）企業フィランソロピー大賞（第8回）

「本業を生かした社会貢献事業」を実践し、顕著な成果を上げている企業を顕彰することで、CSR経営の普及・啓発につなげることを目的としている。本年度は「がん・医療」をテーマとしたプログラムを展開しているアメリカンファミリー生命保険会社に大賞を、以下4社に特別賞を授与した。

- ・企業フィランソロピー大賞：アメリカンファミリー生命保険会社
- ・特別賞 先進雇用モデル賞：アイエスエフネットグループ
- ・特別賞 未来への環境リレー賞：シャープ株式会社
- ・特別賞 いのちを救うバードアイ賞：株式会社パスコ
- ・特別賞 人財ハーモニー賞：株式会社加藤製作所

5. 補助金事業（厚生労働省）

厚生労働省「平成22年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業」補助金事業として障害者就労支援事業の実態調査および課題分析を行なった。本調査では就労移行の送り手となる就労支援センター等の関連機関と受け手の企業にとっての課題を調査分析するとともに、今後の障害者就労促進に向けた提言をまとめた。また、本調査の報告会を兼ね、学識者、企業、支援事業所関係者により「移行支援事業所・企業・関係機関の連携」と題し、支援ネットワークのあり方、企業経営上の実態、更には福祉施策についての就労促進への課題についてパネルディスカッションを行った。今回の調査研究について多くの関心が寄せられ、また、報告会のアンケート調査の結果、本調査結果に対して概ね好評であった。

(1) 外部専門家による企画委員会の設置

秦 政 氏 (NPO法人障がい者就業・雇用支援センター理事長)

高森 裕子 氏 (株式会社三菱総合研究所)

小川 浩 氏 (大妻女子大学人間関係学部人間福祉学科教授)

田中 正博 氏 (NPO法人全国地域生活支援ネットワーク代表理事)

湯田 正樹 氏 (株式会社 キューピーあい代表取締役社長)

(2) 実態調査および課題分析

就労移行支援事業所から一般企業への移行状況に関する アンケート調査

就労移行支援事業所等へのヒアリング調査

(3) 調査報告会

①日 時： 2011年3月10日(木) 13:30~17:00

②会 場： 砂防会館 別館 3階 立山

③プログラム：

1. ガイダンス：「障害福祉施策の動向」

2. 調査報告：「障害者就労支援事業の実態調査および課題分析」調査結果と考察

3. パネルディスカッション

テーマ：障害者の企業就労を促進する就労移行支援事業所・企業・関係機関の連携

6. 助成事業 (アメリカン・エクスプレス財団)

NPO・NGOの次世代リーダーを育成するための研修プログラムを同財団と共催した。

今回は3回目であるが、首都圏を対象に研修生の公募を行なった。今までの受講生は、研修生も合計で67名となり、研修生同士のネットワークも築かれている。研修後に団体内で昇進した者、海外でソーシャルビジネスを立ち上げた者など、研修の成果ともいえる事例が報告されている。今回は一層のレベルアップをめざし、地方のNPO枠を増やして実施したい。

①日時： 平成23年3月3日(金)~5日(土) 2泊3日の合宿形式

②場所： 東京(クロスウェーブ東中野/アメリカン・エクスプレス本社)

③対象： NPO・NGOならびに公的機関の若手職員

④内容： リーダーシップ論・問題解決の手法、実践事例紹介など

⑤総合監修： 米倉誠一郎氏(一橋大学イノベーション研究センター長・教授)

7. ペニーハーベストプログラム事業 (準備)

米国のNPO Common Centsが開発したペニーハーベストプログラムを日本に導入できないかどうかの検討を開始した。

- ・ 10月に理事長がニューヨークの同団体を訪問、プログラム内容の調査を行い、同時に日本への展開の合意を得、機密事項に関する覚書（Confidential Agreement）を締結した。
- ・ プログラムコーチのためのインストラクションブックの翻訳を行った。
- ・ 参加校を募るべく、学校、関係団体を訪問している。
- ・ 国際交流基金日米センター（ニューヨーク）に Common Cents の代表 Teddy Gross 氏の日本招聘のための助成金を申請した。

Ⅲ. 共生社会創造（ソーシャルインクルージョン）事業（公益目的事業3）

1. IT活用による音訳サービス『声の花束』事業

本事業は企業の社会貢献活動として根強い支持があるが、今年度は以下の企業にて講習会および音訳ボランティア活動を行なった。

- ・ ゴールドマン・サックス証券株式会社
- ・ 日本メドトロニック株式会社
- ・ 株式会社ジェーシービー
- ・ ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
- ・ 株式会社NTTドコモ、ドコモ・サポート株式会社

2. アートエイド名刺事業

フィランソロピー普及と障害者の経済的自立のための事業であり、当協会が障害者アーティスト等との契約関連管理業務を担当、その他の業務を財団法人新宿区勤労者・仕事支援センター「チャレンジワーク」に委託している。同所では16名の障害者が注文の受付から制作、発送業務に携わっており、就労実務の体験に効果を上げている。実績の推移は以下のとおりであるが受注が伸び悩んでいる。新たな作品の導入等により利用者の掘り起こしを行っている。

(1件は100枚)

	平19年度	平20年度	平21年度	平22年度
制作件数	447	415	381	398

3. 受託事業（財団法人こども未来財団）

平成16年度より継続的に行っている事業である。本事業は、財団法人こども未来財団との共催により、全国主要都市で「企業とNPOの子育て支援協働推進セミナー」として開催しているが、今年度は以下の2会場に於いて開催した。本年度のセミナーでは、筑波大学の田中洋子氏に柔軟な働き方を目指したドイツと日本の比較について基調講演をお願いした。

- (1) 東京会場（日本アムウェイ合同会社 B1F オーディトリウム）

- ①日 時： 平成 22 年 10 月 25 日（木）
- ②基調講演：「柔軟な働き方をめざして～ドイツと日本の試み」
講 師： 田中 洋子 氏（筑波大学大学院 教授／経済学博士）
- ③パネル・ディスカッション：
「ワーク・ライフ・バランス実現に向けた社内意識改革」

(2) 福岡会場（アクロス福岡 大会議室）

- ①日 時： 平成 23 年 1 月 13 日（木）
- ②基調講演：「柔軟な働き方をめざして～ドイツと日本の試み」
講 師： 田中 洋子 氏（筑波大学大学院 教授／経済学博士）
- ③パネル・ディスカッション：
「地域全体で取り組む仕事と子育ての両立支援」

4. 知的障害者の自主製品紹介サイト「アニモショップ」

障がい者の自主製品をインターネット上のアニモショップで紹介し障がい者の社会的認知の向上と経済的自立支援を行っている。

5. インターンシップおよび体験ボランティア受入れ

当協会では、次世代の社会貢献活動を担う若手人材を常時インターンとして受入れており、今年度は、大学、企業、および中間支援組織からの依頼などにより、学生 6 名を受入れた。

IV. 当協会 会員数の推移

当協会の会員数の推移は以下のとおりである。

	平 18 年度 末	平 19 年度 末	平 20 年度 末	平 21 年 6 月	平 21 年度 末	平 22 年度 末
正会員	48	51	47	47	49	43
賛助会員(法人)	56	59	56	58	54	61
計	104	110	103	105	103	104

附属明細書

附属明細書の添付はありません。